附錄

地質

本縣ノ土壤ヲ構成スル岩石ハ火成岩、及水成岩ニシテ

(一)花崗岩地ハ各地ニ現出スレ𪜈各其占ムル所ノ廣袤甚タ狹隘ニシテ敦賀郡ノ南部疋田村地方及三方郡耳川ノ東西ニ於ケル地方ニアルヲ以テ其面積較大ニシテ多少農業ニ關係ヲ有スルモノトス其他敦賀及三方ノ兩郡ニ跨リ半島形ヲナス土地ヲ構造スル本岩地亦大ナレ𪜈地勢最モ山嶽ニ富ミ耕地ハ山腹傾斜ノ地ニ於テ散在スルノミ

(二)石英玢岩地ハ大野郡ノ各所及吉田、足羽ノ兩郡ニ跨リテ現出スレ𪜈其面積大ナラス其地勢亦峻嶮ニシテ耕耘ニ適スルノ地甚狹少ナリ

(三)火山岩地ハ三大區域ニ分レテ現出シ其廣袤甚タ大ナリト雖モ現在ノ耕地ハ甚タ狹少ナリトス本地質ニ係ル土壤ハ角閃安山岩或ハ輝石安山ノ分解シタル者ニシテ其表面ノ土壤ハ概シテ埴土ナリ

(四)片麻岩地ハ大野郡ノ各地ニ露出スレ𪜈其廣袤何レモ極メテ狹隘從テ耕地面積亦甚タ狹少ナリ

(五)閃綠岩及蛇紋岩ハ敦賀及大飯郡ノ一局所ニ露出スレ𪜈重ニ峻嶺溪谷ノ地ニ屬シ土壤ヲ構成スル面積甚タ狹隘ニシテ土性トノ關係薄ク且將來農業上大ニ望ヲ屬スヘキ地性ニアラス又石英斑岩ノ如キモ大野郡ノ各所ニ點々露出スルト雖モ土地險阻ニシテ稼穡ニ適スル土壤ヲ構成スル面積亦狹少ナリ

(六)古生紀岩地ハ本縣中最大區域ヲ古メ其北端ハ今立及丹生ノ兩郡ニ起リ南條郡ヲ貫キ南延シテ近江國及敦賀郡ニ入リ同郡ノ中央ニアル花崗岩ニ切斷セラレ再ヒ同郡及三方郡ノ境界ニ露出シ若狹國殆ント全部ヲ貫キ近江、丹波、及丹後ニ入ル又本縣ノ東北隅ニ於テ小面積ノ土地ヲ構成ス此ノ如ク最モ廣濶ナル土地ヲ占領スレ𪜈土地悉ク嶮峻ニシテ山嶽高峰或ハ丘陵傾斜ノ地ニ屬シ耕耘ニ適應セルノ地ハ實ニ狹少ナリ而シテ其地形ヲ見ルニ山腹傾斜ノ地或ハ溪流河岸ニ沿フテ星點スルニ過キサルナリ

(七)中生紀岩地ハ本縣中各地ニ露出スレ𪜈其廣袤概シテ大ナラス然レ𪜈獨リ大野郡ノ東南隅ニ現出シ越前美濃ノ國界ニアル山脉ヲ構造スルモノハ其面積較々廣濶ナリ而シテ本岩地ノ地勢ハ概シテ山陵峻嶮農耕地トシテ使用スル面積ハ甚タ僅少ニシテ重ニ山腹傾斜ノ地ヲ耕耘シ平坦ナル土地ハ極メテ僅少殆ント之ヲ見サルナリ

(八)第三紀層ニ屬スル地ハ甚タ廣濶ナル部分ヲ占領ス本紀ヲ構造スル岩種ハ砂岩凝灰岩等ニシテ加賀國江沼郡及坂井郡

ノ境界ヲナス山陵ハ本紀ノ岸石ヨリ成リ福井平原及今立郡鯖江四隣ヲ圍繞スル山陵丘阜亦本地層ノ構造ニ係ル者ニシテ漸次南ニ向ケ延長シ南條郡湯尾嶺ニ至テ止マル又丹生郡ノ海岸ニアル丘阜モ亦此地層ノ土地ナリ而シテ其地勢ハ山嶽高嶺ニ乏シク概シテ丘陵ノ形狀ヲ有スレハ多少斜面ヲナセトモ其度緩慢ニシテ或ハ平坦砥ノ如キモノナリ

(九) 第四紀古層地ハ本縣中本地質ノ構造ニ係ルモノ數ケ所ニ散在露出スル𪜈多クハ臺地ヲナシテ其區域甚タ狹少ナリ然レ𪜈今立郡鯖江地方大野郡勝山町四近及同郡富田村地方ニ於テ或ハ原野ノ形狀ヲ現セ𪜈平坦ナル耕地ヲ構造シ且市街ニ接近シ運輸ノ便アレ𪜈農耕上重要ノ關係ヲ有スルモノナリ

(十) 第四紀新層地ハ本縣內最重要ナル農耕地ニシテ其沖積地ヲ區別スレハ左ノ如シ

(イ) 足羽郡ノ平地ハ足羽川ノ氾濫ニ際シテ沖積シタルモノニシテ其土性ハ埴土ナリ

(ロ) 大野郡大野町四近ノ平地ハ眞名川沖積地ニシテ本地方ノ中央部ニ於テハ埴土ナレ𪜈漸次其周圍ニ至レハ石礫ヲ含有シテ礫質埴土トナル

(ハ) 大野郡勝山町四近ノ地ヨリ坂井郡鳴鹿村西部地方ニ至ル間ノ平地ハ九頭龍川沖積地ニシテ坂井郡ノ平地ハ悉ク九頭龍川、足羽川、日野川及其支流ノ働作ニ係ルモノナリ本地方ハ河川ノ平流區域ニ屬スレハ其漂積物亦細微ニシテ一般ニ埴土ナリ然レ𪜈本河流ノ沿岸ニ至レハ屢河水氾濫シテ細粒ノモノヲ淘汰スレハ其土性ハ壤土ナリ又海濱ニ累積セル砂阜ニ接近スル地方ハ屢々風波ノ働作ニヨリ土砂ヲ飛揚シ之ヲ土壤中ニ混淆スルヲ以テ坂井郡西部ノ地方ハ砂土ヲ含有スル事多クシテ自然其土性ハ變シテ壤土トナル

(ニ) 南條、今立及丹生ノ各郡ヲ貫通スル沖積地ハ日野川及其支流ノ働作ニ係ル者ニシテ其上流ニ於テハ流勢急ナルヲ以テ其構造セル土性ハ壤質埴土ナレ𪜈其下流ニ至レハ其水勢緩漫トナレハ隨テ其地方ノ表土ハ埴土トナリ下層ニ於テハ石礫ヲ混有ス

(ホ) 敦賀灣ニ瀕スル平地ハ河海ノ作用ニ依テ成リ海濱ニアリテハ海成沖積地ニシテ其土性ハ砂土ナレ𪜈漸次內地ニ入ルニ從ヒ笙ノ川沖積地トナリ其土性ハ礫質壤土ナレ𪜈其流末ニ於テハ石礫ヲ含有スルヿ僅少ニシテ砂質トナル

(ヘ) 三方郡ノ海濱ニアル土地ハ海水ノ作用ニ依リテ成ルモノナレハ其土性ハ砂土ナリ又內地ニ於テハ河水ノ働作ニ依リテ沈積シタルモノナレハ其水勢ノ緩急ニヨリ其土性ハ埴土アリ礫質埴土或ハ壤土トナリ現出ス

(ト) 遠敷郡ノ海濱ニ亦海成沖積地アレ𪜈最モ農耕ニ關係アルハ北川南川及其支流ノ沖積地ニシテ本地ニ全ク古生紀岩層ノ山嶺丘阜ニ圍マレタル一低地ナリ又北川、南川、及其支流ハ共ニ古生紀岩地ヨリ發源シテ其經過スル地方ノ地質亦同一ナレハ其浮流沈積シタル土壤ノ性質ハ殆ント同一ニシテ其大体ノ地味ヲ等フス然レ𪜈河流ノ緩急及平流域ノ長

短ニヨリ其器械的組織ヲ異ニス即チ北川ノ谿流ニ於ケル沖積地ハ表土石礫ヲ含有スレハ其土性ハ礫質埴土ナリト雖モ日笠地方ヨリ下流ハ平流域ニ屬シ水勢緩ナルヲ以テ埴土トナリ又南川沖積地ハ稍粘質ニ富ミ之ニ適宜ノ砂粉ヲ夾雜スレハ壤質埴土ナリトス

（チ）大飯郡佐分利川モ其水源及經過スル地方ノ岩層ハ南北兩川ノモノト同一ニシテ古生紀岩地ナレハ其沖積物ノ性質亦相類似ス高濱地方ノ平地ハ海潮ニ關スル器械的操作ニ依テ沈積シタルモノナレハ其性質大ニ前記ノ河水沖積土ト異ナリ其地方ノ山嶽及平源ノ地質ニ關係スルヿ極メテ僅少ナリ

其他石灰岩層アリテ片麻岩、古世紀岩、中生紀岩等ノ中各所ニ露出シテ大野郡敦賀郡三方郡等ニアル者ハ其面積極メテ大ナリ

福井縣工業試驗場事業功程

一　地所及建物ノ坪數（明治四十二年十二月末日現在）

地所ハ福井市簸川中町（九番地ヨリ十四番地迄六區）及ヒ吉田郡圓山西村松本地方（二十七號東五ノ坪三十三番外三十九坪）ニテ其坪數總テ三千坪ナリ

建物ハ工場、汽鑵室、事務室、職工休憩所及倉庫、物置、便所、廊下等ニシテ門前ノ正面ニ玄關（二坪）次キニ二階造ノ事務室（二十八坪）職工休憩所及小使室（十五坪）アリ其後方ニ長形ナル工場（二百坪）ト汽鑵室（二十三坪）アリ又倉庫ハ事務室ノ東南ニ位シ四間ニ五間ノ二階造ニテ（庇共二十坪）ナリ物置ハ門ノ入口面側ニ（十二坪）アリ其他便所及廊下（二十三坪餘）等ヲ合セテ三百二十三餘ナリ

一　据付器械種類及員數

一生絲繰返機	五臺	一再繰返機	二臺	一ボビン卷機	二臺
一練糸管卷機	一臺	一整經機	二臺	一耳整經機	一臺
一生糸糊付機	三臺	一生糸合糸合糸再繰機	三臺	一合糸糊付機	四臺
一佛國製力織機	五臺	一生糸管卷機	一臺	一綜絖製織機	一臺
一平田式力織機	一臺	一タオル織機	一臺	一手織機	七臺
一自働バッタン手織機	一臺	一ジヤカード	四臺	一バンサンジー	一臺

一羽二重仕上機	一臺	一ピヤノマシン	二臺	一紋彫機	三臺
一米國式撚糸機	三臺	一ワインダー	一臺	一ダブリング	一臺
一揚返機	一臺	一檢類器	一個	一檢力計	一個
一檢尺機	一個	一檢位衡	一個	一檢撚器	一個
一銅製糊鍋	一個	一廻轉計	一個	一銅製染鍋	二個
一分折機械	一個	一蒸箱	一個	一汽機	一個
一同上附屬品	一個	一毛髪温度計	一個		

試驗成績

半紡縮緬製織

近時本縣力織機激增ノ趨勢ハ實ニ驚クヘキモノアリ此ノ趨勢ニシテ持續センカ普通羽二重ノ如キ全部力織機生產品ヲ以テ充タサル丶ノ時期蓋シ遠キニ非サルヘシ如斯ニシテ力織機ヲ据付能ザル小資本家亦タハ動力ヲ得ルノ便ナキ地方ニ居住スル機業家等ハ果シテ那邊ニ活路ヲ見出サレント欲スルカ今ニシテ手段ヲ講ズルハ必スシモ徒爾ナラザルヘシ此意ヲ以テ已ニ前年度ニ於テ縮緬製織ヲ試ミタリ本品亦タ此意ニ外ナラス唯タ價格ヲ廉ナラシメンカタメ緯糸ニ絹糸紡績糸ヲ代用シタルノミ

原料　經糸十四デニール二本合セ

緯糸紡績絹糸諸撚八十番、之レニ左撚一メートルニ付二千五百回加ヘタルモノヲ一種ノ緯トシ亦タ一ツハ右撚千八百五十二回ヲ加ヘタルモノヲ用ユ斯左右撚ニ差異ヲ生セシメタルハ左撚ノ際ハ紡績糸自身ノ撚ニ反對ナルモ右撚ノ際ハ同一方向ナルヲ以テノ故ナリ

筬密度　鯨一寸間百枚

經糸密度　地糸二本合セノモノ一羽二本通
　耳糸四本合セノモノ一羽二本通

緯糸密度　鯨一寸間九十本打込

整經　巾一尺九寸三分長十三丈五尺

織上　巾一尺九寸長十二丈六尺五寸

織高　一時間二尺

生量目　四百五十匁
機　筬　手織機
更ニ同一設計ノ下唯タ製造所ノ異ナル同太サノ原糸ヲ以テ織製シタル織上巾一尺九寸長十三丈五尺量目五百七匁ヲ算シタリ
成蹟　未タ精練整理ヲ施サヽルヲ以テ可否判シ難シ

縮緬手織機使用實驗

本織機ハ石川縣大聖寺町岡村忠太郎氏ノ發明ニカヽリ二杼變換装置ヲ有ス第一三五七〇號ヲ以テ特許權ヲ得タル者ナリ使用上未タ幾分不滿ノ点アルカ如ク來テ實驗ヲ囑託セルモノナク次ノ設計ノ下ニ試織ス

第一回
原　料　經絲十四デニール二本合
緯絲紡績絹絲諸八十番ニ左撚ハ一メートルニ付二千百五十回右撚ハ千八百五十回ノ撚數ヲ加ヘ使用ス
筬密度　鯨一寸間八十四枚
經絲密度　地絲一羽二本通　耳絲一羽四本通
緯絲密度　鯨一寸間七十八本
整　經　巾九寸七分　長四丈二尺
織　上　巾九寸七分　長四丈一尺
生量目　六十五匁
織　高　一時間二尺五寸
更ニ亦タ次ノ設計ノ下ニ製織ヲ續行セリ

第二回
原　料　經絲十四デニール
緯糸紡績絹糸諸八十番ニ左撚一メートルニ付二千五百回右撚千八百五十回ノ撚數ヲ加ヘ使用ス
筬密度鯨　一寸間八十四枚
經糸密度　地糸二本合ノ物二本通　耳糸二本合ノ物四本通
緯糸密度　鯨一寸間七十八本

整経　巾九寸七分　長四丈
織上　巾九寸七分　長三丈四尺
生量目　六十三匁
織高　一時間二尺
成蹟ハ實驗ニ徵スルニ本器ノ欠点トスル處ハ杼箱ノ長サ短キニ失シ投杼ノ際飛杼ノ方向一定ナラス較ヤモスレハ外間ヘ飛出サントス且ツ亦タ杼箱中ニ入リタル時幾分逆戻リスル塲合多ク爲メニ緯糸ノ「タルミ」ヲ生ス尙ホ他ノ欠点ハ杼摺ノ傾斜强キニ失シ杼ノ杼箱ニ突入スル運動圓滑ナラサルノ傾アリ依テ以上ノ二欠点ヲ依托者ニ指示シ改造ヲ命シ使用シタルニ頗ル好結果ヲ得タリ

羽二重經糊改良試驗

本試驗ノ目的ハ前年度報告ニ詳カナリ前年度ニ於ケル十數回ハ實驗中較ヤ可ナル者トシテ次ノ調製糊ヲ擧ケタリキ而シテ本調製糊ハ引揃糸ヲ附着セシメタル儘再繰返ヲ成スニハ能ク耐ヘ得ルモ未タ以テ製織ニ耐ヱ能ハサルヲ云ヒタリキ然レ𪜈更ニ實驗ヲ重ヌルニ及テ同ニ糊ヲ以テ辛シテ製織シ得ルノ程度ニ達シタリ

第一回

糊ノ調製
ふのり　十五匁
グリセリン　十五匁
解舒液　少量
水　一升

以上ノ糊ニテ二度糊付ヲナシ次ノ設計ニ依リ製織ス

原料　經緯糸共十四デニール
筬密度　鯨一寸間百枚
經糸密度　地糸二本合セノ物一羽二本通　耳糸二本合セノ物一羽四本通
緯糸密度　四本合セノ物鯨一寸間百五十本打込
整經　巾一尺九寸五分　長十二丈五尺
織上　巾一尺九寸　長十二丈二尺

生量目　四百四十七匁
織高　一時間二尺
機臺　新高式力織機
上表ニ於テ見ルカ如ク織高ハ一時間一尺五寸ニシテ普通糊ヲ施シタル物ノ半ニシ差カス即チ知ル本調製糊ハ製織シ得ラレサルニハ非ルモ未タ以テ實用ニ供シ能ハサルコトヲ依テ更ニ實驗ヲ繼續セリ

輸出向輕目朱子製織試驗

近時輕目朱子ハ其輸出額ニ於テ未タ多大ナラサルモ其利潤ノ多キ羽二重ヲ凌クコト數等而カモ其産地ハ殆ト山形地方ニ限ラレタルノ觀アリ爲メニ隣縣石川ニ於テハ已ニ之カ摸製ヲ企テツヽアルモノアリ本縣當業者亦タ來テ指導ヲ乞フ本場モ已ニ着眼シツヽアル處ノ者依テ直チニ試織ヲ開始セリ

福井ポプランノ試織

福井ポプランハ本場ノ新案ニシテ亦タ新ニ命名セル織物ナリ抑モポプラン織トハ經糸ニ絹糸ニシテ緯糸ニ毛糸ヲ用ヒ平織ニ組織シタル織物ナリト聞ク本場新案福井ポプランハ經糸普通絹糸ニシテ緯糸ニ紡績絹糸ヲ用ヒタル物ニシテ製品ノ手觸リ味等殆トポプラン織ニ彷彿シタリ此レ其名ノ依テ來レル所以ナリ而シテ本織物創製ノ目的ハ羽二重以外ノ重要輸出品ヲ得ント欲スルニアリトス彼ノ羽二重ヤ輸出織物トシテ産額最モ多大他ニ比較スルモノナシト雖モ其價格ノ約八割五分ハ實ニ原料タル生糸ノ占ムル所ナリ故ニ原糸相場ノ高低ハ斯業者ニ取リ眞ニ死括問題ナリト而已ナラス世人ノ嗜好ト市場ノ狀態ハ永ク一定不動ナル者ニ非ス今ニシテ新案織物ノ考案ニ努力シ亦タ廉價ニシテ比較的相場ノ變動少キ原料ノ應用ニ腐心スルハ決シテ徒爾ナラサルヲ信スルナリ

壁羽二重試織

本品ハ輸出向並ニ內地向共逐年需用增加ノ傾アリ依テ本場ハ羽二重以外ノ本縣重要物産タラシメント欲シ試織ノ上當業者ニ範ヲ示シ奬勵スル所アリ當業者亦之ニ應シ已ニ製織ヲ開始シタル者アリ

縞シフヲン製織

偶々當業者ノ如何ニセハ縞シフヲンノ如キ極メテ薄地ノ物ヲ手織機ヲ以テ織製スルヤヲ來リ問フアリ即チ其範ヲ示セリ

原料　經緯共十四デニール
　地糸經緯共撚數一メートルニ付千五百圍　縞糸二本諸撚練糸
糊　水一舛ニ付フワリナ十四匁、麥粉二十匁　白蠟二匁

筬密鯨　一寸間百枚

經絲密度　地絲一羽一本通　縞絲一羽四本通

緯絲密度　鯨一寸間百三十八本打込

整　經　巾一尺六寸五分　長十三丈

織　上　巾一尺六寸　長十二丈五尺

生量目　百四十七匁

織　高　一時間二尺五寸

機　臺　手織機

織機裝置機臺ニバッタン止メ木ヲ裝置シ以テ打込ノ力ニ强弱アルモ常ニバッタンノ止ル位置ヲ制限シ而シテ織布ハ巻取機ニ依リ一定寸宛巻取ラル、ヲ以テ緯段ハ全ク之レヲ防キ得ル如ク裝置セリ

女子織物研究生ノ養成

本場ニ隣接シテ工業講習所アリ以テ男子ノ斯業程度技術者養成機關トナシ遺憾ナカラシム然レトモ女子ニ至リテハ與ラス即チ本場ハ女子程度技術者養成機關ヲ設ケ以テ未來ノ機業家主婦亦ハ女織工監督者ノ養成ニ勉メタリ而シテ入場者資格ヲ高等小學校卒業以上ノ學力ヲ有スル者ニ限リ一周三時間ノ機織法講義六時間ソ織物分解ヲ課スルノ外實習ハ凡テ本場職工ト全ク同一ニ作業セシメ滿一ケ年ヲ以テ終了セシムルノ豫定ナリ此年初メテ募集スル處アリ四月二十日入場許可シタル者三名四十三年三月三十一日終了證書ヲ授與セリ其數甚タ多シトセサルモ彼等ハ皆誠實ニ業務ニ服シ本場ノ期待ニソムカサル如シ實技ノ練習ハ原絲ノ取扱法ヨリ準備工程ニ移リ遂々進テ彼等自ラ設計シ自ラ製織スルニ至レリ

各種織物ノ整理實驗

現在本場備付ノ機械ニハパルミル式仕上機、瓦斯燒機、湯熨斗機、揉布機、湯通シ機、下巻機、手働壓搾機リボン模付、ロール等アリト雖モ未タ以テ全シト云フヘカラスカレンダーノ如キ裏糊用張臺ノ如キ必要欠クヘカラサル者ナルモ斯ハ次年度ノ完備ニ俟チ本年度ニ於テハ上記機械ニ於テ成シ得ル範圍內ニ於テ反覆實驗ヲ重ネタリ由來整理ノ事タル元ト之レ觀客ノ望ミニ應スヘキ者ニシテ一定ノ品質ニアリト雖モ之レヲ一定方法ニ律シ得ヘキ者ニ非ス況ンヤ千變萬化涯リナキ品質ニ於テオヤ故ニ之カ試織ハ最モ普通ニ行ヒタル方法ヲ示スニ過キス

機械ノ增設及工場配置變更

本年度ニ於テ增設シタル機械ハ獨乙國チットウ機械製造會社精練機（價格金貳千參百七拾七圓五拾錢）瑞西國ルチー機械會

社製四丁杼力織機（價格金七拾八圓拾九錢）東京市佐野鐵工場製紋水機（價格參千圓）京都市田淵鐵工場製巾出裏糊機（價格金貳百圓）等ナリトス之レ等ハ何レモ皆本場及講習所ニ對スル農商務省ノ補助金ニ依リテ購求シタルモノナリトス精練機械ハ今日歐洲ニ於テモ最新式ト稱セラル、處ノ者ニシテ本邦ニテ從來使用シツ、アル精練機トハ全然其趣ヲ異ニス即チ精練セントスル羽二重ヲ六角形ノ枠ニ卷クニ其卷キ方ハ圓心ヨリ圓周ニ爲シ一周ヲ終ル毎ニ各枠角ニハアルミニユーム製細キ圓棒ヲ重ネ以テ布面ト布面トヲ相密着スルコトナカラシム卷カレタル枠ハ其儘練箱中ニ沈下セラレ外部ヨリ該枠ヲ回轉セシメツ、精練ヲ行フモノトス蓋シ本機ノ特色ハ布面密着セスシテ空間ヲ有スルカ故ニ練液ノ布面ニ及ス作用ハ枠ノ内部外部ニ拘ハラス常ニ一樣ナルヲ以テ從テ精練程度ト各部共一樣ナルヲ得ヘシ亦タ本裝置ニヨル時ハ普通裝置ノ際ニ於ケルカ如ク布面互ニ相摩擦シテ毛羽ヲ生シ所謂機械的疊ヲ生スルカ如キコトナカルヘキヲ信ス、四丁杼力織機ニ在テハ近時本縣ニ於テ縞羽二重生産ハ激增ヲ來シ而カモ好評嘖々タルモノアレハ該羽二重ノ尙ホ益々發展スルハ想像ニ難カラス而シテ其縱縞ナルモノハ概ネ力織機ニ依リ製織シツ、アルモ其横縞ナルモノハ止ムヲ得ス手織機ヲ以テ製織シツツアル現狀ナリトス即チ本機ノ購求ハ目下焦眉ノ要求ニ對スル好參考品タルヲ疑ハザルナリ其他紋水機ノ如キ精練染色ニ欠クヘカラサル處ノ者亦タ巾出裏糊機ノ如キモ內地向織物仕上ニ對シテ必要欠クヘカラサル者ナリトス

以上諸機械ハ何レモ皆年度末ニ着荷シタルモノナルヲ以テ此レカ使用上ノ成蹟ハ玆ニ發表スルニ由ナク之レヲ明年度ニ待タントス

前記ノ如ク機械ノ增設ニ從フテ工場漸次狹隘トナリ且配置錯亂作業ニ不便ナルト一面ニハ作業方針ノ變更ニ伴フテ其用ヲ減少セルモノヲ整理スヘク即工場ヲ四分シ下拵及手織部、燃絲部、力織機部、仕上部ニ類集配置シ其必用ノ減少セシモノノ中農商務省ノ貸與ニカヽル者ハ之レヲ返納シ本場備品ハ一時倉庫ニ收メタリ

其除去シタル機械ハ總テ下拵ニ屬スルモノニシテ本場創立ノ當初羽二重經絲ノ共同下拵ノ利益ヲ示スヘク同一多數ノ下拵機械ノ貸與ヲ受ケ尙其不足ハ本場ニテ補フタリ然ルニ近時力織機ノ發達スルヤ各工場ハ自ラ下拵ヲナスヲ便トナシテ加工依賴ノ漸次減少セルト又此ノ作業カ製品ニ及ホスノ効果豫期ノ如ク大ナラス而シテ一方ニハ機業界ノ情況ハ他ニ燃絲、染色、仕上並ニ羽二重以外ニ新規織物ノ研究等前者ニ比シ甚緊急ナル事項生シ來リタルコト多キトヲ以テ場處ト經費ノ經濟ニ鑑ミ此レヲ斷行セリ

明治四十四年三月三十日印刷
明治四十四年四月一日發行

福井縣

印刷者　金澤市高岡町九十番地
澤田助太郎

印刷所　金澤市高岡町九十番地
明治印刷株式會社
電話二十九番